

R7年（2025年）度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 16 日

1. 職名・氏名 教授 大島千佳
2. 学位 学位 博士（看護学）、専門分野 基礎看護学、授与機関 石川県立看護大学、
授与年 2009 年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
【学部教育】
① 基礎看護学技術2単位（学部1年生） 内容・ねらい；看護実践能力の習得を目指し、日常生活の援助技術およびバイタルサインの観察技術を学習する。 講義上の工夫；Evidence based Nursing を主軸に、解剖学的根拠を重要視した教育を行った。
②臨床看護学技術2単位（学部1年生） 内容・ねらい；看護実践能力の習得を目指し、日常生活の援助技術および診療の補助技術を学習する。 講義上の工夫；Evidence based Nursing を主軸に、解剖学的根拠を重要視した教育を行った。
③フィジカルアセスメント1単位（学部2年生） 内容・ねらい；全身状態を的確に把握するために、フィジカルイグザミネーション技術、看護過程展開技術を学習する。 講義上の工夫；Evidence based Nursing を主軸に、解剖学的根拠を重要視した教育を行った。
④看護研究方法論1単位（学部3年生） 内容・ねらい；看護研究の意義、方法論を学び、論理的思考と研究倫理を身につける。 講義上の工夫；Evidence based Nursing を主軸に、論理的思考を重要視した教育を行った。
⑤保健統計学 2単位（学部2年生） 病欠教員の代行として急遽担当した 内容・ねらい；集団における健康科学の方法論、記述統計、統計的推論の手法を学ぶ。人口・疾病統計や臨床研究を看護の場でどのように活かすかを学ぶ。 講義上の工夫；統計ソフト Excel を使った演習を組み込みこんで、実践的な指導を行うことで統計学をより身近に感じられるように工夫した。
⑥基礎看護学実習Ⅰ 1単位（学部1年生） 内容・ねらい；既習の看護技術が実際の看護場面でどのように適用されているのかを観察し、日常生活援助技術の実践を通して、看護の役割・機能を学ぶ。 実習運営上の工夫；学生個々の意見や柔軟な発想を重視し、臨地で学ぶこと、患者と接することの喜びとやりがいを感じられるように配慮した。
⑦基礎看護学実習Ⅱ 2単位（学部2年生） 内容・ねらい；対象者の個別性に合わせた看護計画を実践、評価し、看護過程を展開するための基礎能力を習得する。 実習運営上の工夫；学生個々の意見や柔軟な発想を重視し、患者と接することの喜びとやりがい、論理的思考の重要性を感じられるように配慮した。
【大学院教育（看護福祉学研究科看護学専攻）】 なし

【大学院教育（健康生活科学研究科）】

⑧博士課程後期課程 3 年次（D3）1 名、1 年次（D1）に対して研究指導を実施した。3 年次生については、博士論文予備審査を終えた。博士論文 1 件の副査も務めている。

(2)その他の教育活動

内容

① 非常勤講師：福井県立看護専門学校「看護方法論Ⅶ(看護研究)」

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	
・ 人体の構造と機能 第5版（共著），第4章 皮膚と膜, p105-127, 2025 年, 医学書院 ・ 人体の解剖生理学 第3版（共著），第10章 性と生殖に関する機構, p273-286, 2025 年, 金芳堂	
	【2本】
② 学術論文（査読あり）	
・ Natsuki Nakayama, Kuniharu Imai, Shiori Niwa, Yoshimi Moriwaki, Chika Oshima , Nozomi Furukawa, Makoto Hirai: “Application of the Weibull Model to Statins for Triglyceride Management in Patients With Hyperlipidaemia”. Pharmacology Research & Perspectives, 2025 ・ Shiori Niwa, Ayana Mawaki, Keisuke Nakanishi, Fumiya Hisano, Kako Tsukioka, Etsuko Fujimoto, and Chika Oshima : "Evaluation of Skin Viscoelasticity in Breast Cancer-related Lymphedema—Relationship with Subcutaneous Thickening and Fluid Retention" Lymphatic Research and Biology (in press)	
	【2本】
③ その他論文（査読なし）	
・ 丹羽 史織、 大島千佳 がん術後リンパ浮腫の定量評価 Quantitative assessment of postoperative breast cancer lymphedema Precision Medicine Vol.8, No.11, 2025.	
	【1本】
④ 学会発表	
・ Shiori Niwa, Ayana Mawaki, Keisuke Nakanishi, Fumiya Hisano, Etsuko Fujimoto, and Chika Oshima : “The Utility of Fractal Feature Distance Determined Using Virtual Volume for Subcutaneous Tissue Assessment in Breast Cancer-Related Lymphedema Ultrasound Imaging” ICN Congress 2025 Helsinki, 2025.6.9 ・ Yoshimi Moriwaki, Natsuki Nakayama, Chika Oshima , Misao Kurita, Naoshi Oosako, Yukiko Imai : “Relationships among objective sleep indices, blood glucose levels and lipid metabolism in patients with ischemic heart disease: Implications for nursing care.” 28th EAFONS 2025 Seoul, Korea, 2025.2.14 ・ Shiori Niwa, Ayana Mawaki, Keisuke Nakanishi, Fumiya Hisano, Kako Tsukioka, Etsuko Fujimoto, and Chika Oshima . “Evaluation of Skin Viscoelasticity in Breast Cancer related Lymphedema Relationship with Subcutaneous Thickening and Fluid Retention-” 28th EAFONS 2025 Seoul, Korea, 2025. 2.14 ・ 大島千佳 、日々隆雄、村上茂、笠井恭子、古澤之裕、東知宏、小沢美里、宮下妃海： 乳酸菌 FHC3 株の脂質代謝調節作用と睡眠改善効果の検証 コ・メディカル形態機能学会第23回学術集会，福井，2025.9.21	

・丹羽史織、間脇彩奈、久野史椰、中西啓介、福山篤司、今井國治、藤本悦子、<u>大島千佳</u>： 乳がん術後リンパ浮腫における細胞外水分比（%ECW）と MRI 所見の関連性 コ・メディカル形態機能学会第 23 回学術集会，福井，2025.9.21 ・天野水月、山川晃史、三神樹香、丹羽史織、間脇彩奈、久野史椰、中西啓介、川西康友、<u>大島千佳</u>： 健康女性の生理的下肢浮腫による皮膚表面構造の変化 コ・メディカル形態機能学会第 23 回学術集会，福井，2025.9.21 ・山川晃史、天野水月、三神樹香、丹羽史織、間脇彩奈、久野史椰、<u>大島千佳</u>、中西啓介： 生理的浮腫に特異的な皮膚ガス成分の探索：ガスクロマトグラフ質量分析法を用いて コ・メディカル形態機能学会第 23 回学術集会，福井，2025.9.21	【 7 件】
⑤ その他の公表実績	【 0 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(科研費) 研究代表者 1. 基盤 (C) 2024 年～2028 年 新たな睡眠援助技術の開発－腸内環境のコントロールによるアプローチ－ 共同研究者 2. 基盤(B) 2023 年～2028 年 超音波画像解析を活用したオーダーメイドな看護介入のための新たな動脈硬化指標の開発 3. 基盤(C) 2023 年～2026 年 続発性リンパ浮腫の評価とタンパク質動態：リンパ浮腫モデル動物を用いた基礎研究 4. 基盤(C) 2022 年～2026 年 虚血性心疾患患者における生活習慣改善に向けた睡眠への看護介入指標の確立 リンパ浮腫評価指標の開発－皮膚表面構造はリンパ浮腫を評価できるか－ 5. 基盤(C) 2025 年～2029 年 体表面微量生体ガスに着目したリンパ浮腫セルフチェックシステムの基盤的知見の創出 6. 基盤(C) 2025 年～2028 年 個別化ヨガによる腸内環境と心身機能の改善：高齢者・入院患者のための健康増進介入 7. 基盤(C) 2025 年～2028 年 体軸体操がもたらす姿勢・腸内環境改善効果 -情報機器作業者の新たな健康増進戦略- 【学内】 研究代表者 8. 戦略的課題研究推進支援 2025 年 「越前チーズは人生 100 年時代に欠かせない快適な目覚めと活力を与えられるか？」	
(3)特許等取得	
なし	

(4)学会活動等
・コ・メディカル・形態機能学会：役員 ・日本看護技術学会：査読委員 ・日本看護科学学会：代議員 ・学会の開催運営（大会長、シンポジウム司会） コ・メディカル形態機能学会第 23 回学術集会（2025.9.20-21）、福井県県民ホール

5. 地域・社会貢献活動

5－1. 学外団体における貢献（委員、調査、共同研究など） ・山形大学医学部看護学科同窓会 樹氷会 会長 5－2. 大学主体の地域貢献活動 なし

6. 大学運営への参画

(1)補職
・看護学科長 2025.4 月～現在に至る
(2)委員会・チーム活動
・看護福祉学部フィンドレーワーキンググループ 米国フィンドレー大学からの短期留学生の受け入れプログラムを運営した。
(3)学内行事への参加
・オープンキャンパス（対面、オンライン） ・白樺祭（教員出店）
(4)その他、自発的活動など